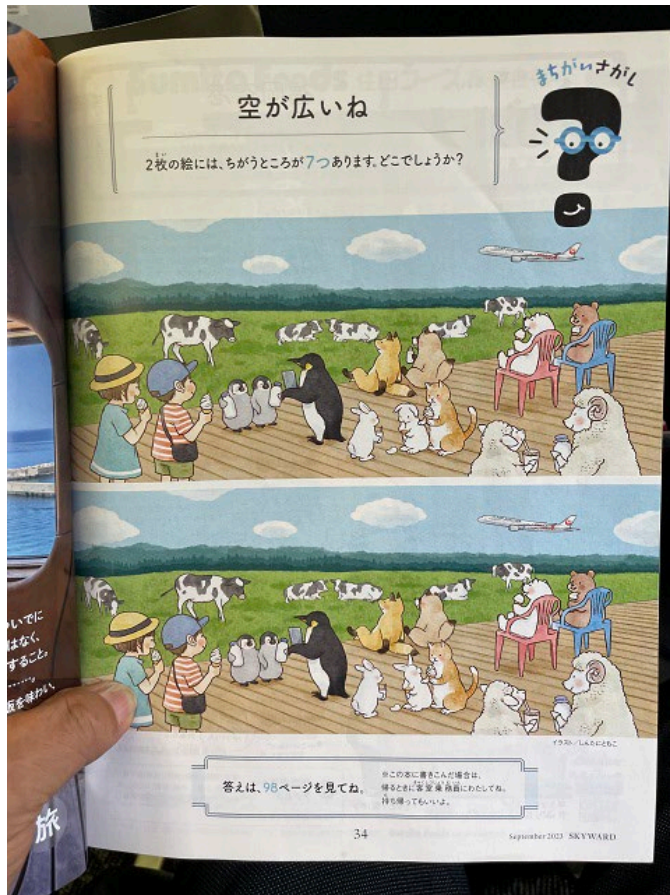


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 10月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



JAL に搭乗する楽しみに機内誌がある。ほぼ、ひと月に一回以上は JAL に乗るので、読み逃しは殆どないように思う。コロナの一時期は、座席のポケットには無いが、経費削減の為、ひと席に一部置く事を辞めているだけだろうと想像して、CA に『乗せていませんか』と問うと ニコッ と微笑んで『お待ちください』と言って、持って来てくれた。

10 年ほど前の話したが、そのインタビュー記事に古い友達、鮎川潤が登場していた。とても懐かしく思い出した。仙台で出会った時、彼は私より歳がひとつ上で東京大学の四回生だった。いわゆる卒業旅行で同窓生と二人で来ていた。マクドナルドって訳は無いから、『どぐらまぐら』って言ったか、当時のカウンターカルチャ

ーの薫陶を受けている人間が集まる喫茶店だった。大きなテーブルの角に、たまたま座ると左に二人がいた。先に書いたような内容が話し始めだった。

当時高校は卒業したものの、為すべきことも分からず、似たような仲間と東京でウダウダと過ごしていた。所謂都市コミュンというやつだ。それは、それなりに社会の流れから逸脱していて、そういう意味だけがあり、だけどそれが心地良かった。そんな話しをしていて、自分たちが棲んでいる住所を教えたと思う。そもそも仙台では有名な『七夕祭り』があり、その街を根城にしていた同じような仲間が、全国の仲間呼びかけて、自分たちのイベントをしようということで集まっていた。仙台市には広瀬川という大きな川が流れていて、その河原にテントを張って一週間ほど過ごしていた。昼間は飾り付けや地元のみんなの踊りで賑やかな市街に繰り出し、それぞれが思い、思いに自分を主張していた。

口の冴えた仲間が『乞食』をしたくなったと言い、一日中路上に座って、物乞いをしていた。少しからかってみたくなって、何やかんやと声をかけてもダンマリを決め込んでひたすら頭を下げている。『なるほどな』と思いきや、其処を離れると、真面目な顔をして警備に立っていたお巡りさんが目に入り、腰に下げている拳銃に興味津々で、『貸してほしい』などとねだっていると、本当に欲しくなり、それで近くの玩具屋さんに入り、銀玉鉄砲を買った。買っただけで終わる訳が無く、さっきのお巡りさんのところに戻り『これで勝負しよう』とか、真顔で言っていると、さすがに困った顔をして近くの仲間のお巡りさんに『この馬鹿を何とかしてくれ』という顔で助けを求めていた。作った真顔と本気の真顔との違いにふと寂しくなり、それで其処は離れて一緒に買った仲間と、整然と祭りを楽しむ人たちを尻目に撃ち合いを始めた。そんな日替わりのアナーキーさに満足して、日が暮れると河原に戻り毎夜のどんちゃん騒ぎだった。

祭りも終わり東京に戻って、しばらくすると何とジュンが人懐っこい笑顔とともにやって来て驚いた。そしてあろうことかそのまま居着いてしまった。もちろん学校も放つたらかし。一方自分はその事で胸に？マークが刺さった。彼はすっかり人生のまわり道を始めた。そのままなら、JALの機内誌に登場する訳ないのだが、そうして2年ほどが過ぎ私もそろそろ東京を離れるという時、彼は突如として阪大に行くと言い出した。

今は道路交通法を順守する暮らしをしている。シートベルトは締める、駐車は必ず駐車場に入れる。携帯電話は車載装置で話す。ただ、速度だけはだめだ。Outlawにいる。いつだったか、のんびりと左車線を走っていた。突如として右側を猛スピードで走り抜けていく車があった。あんな気遣いじみたスピードで走るなんて、いったい何キロで走っているのだろうと、右側車線に出て追跡してみた。すると普段普通に自分が走っている速度と同じで、頑張っている時よりは20km/hも遅かった。自分の感覚が人とは違い、それ以上にひとの感覚に基づいて法があると思う。法が基準で社会があるなら分かりやすいが、そうはいかない。そうはいかないが脱線するので詳しくは端折る。

話しは戻るが、あの当時はよくある話しだが若さ故、法の存在が無いところにいた。それが日常だった。その存在は実に曖昧で、共通の了解事項というか力のあ

るものが、力の無いものをやっつける存在に過ぎない。

ジュンはそれが気になったのだろうか。少年犯罪を擁護する、と言い出し勉強を始めた。

自分が今日で東京ともおさらばする朝早く、近くに住んでいたこともあり、見送りに来てくれた。関西から迎えに来てくれた友達を含めて記念にと5人で写っている写真があるが、すごく寝ぼけた顔で写っている。結局合格して思う道に進んでいると聞き、やっぱり頭のいい人間は違うなと思ったが、受け入れやすい話しだった。

長々とした前置きになってしまったが、その機内誌の内容は、いくつかの大学教授を経ながら書籍も多く出していた。あの頃の仲間とはすっかり疎遠になり、うわさも聞くことは無いが、まさかこんなところでその後を知る

ことになるとは思わなかった。『・・・花を買い来て妻と・・・』
楽しまないし、『はたらけどはたらけど猶わがくらし・・・』
じっと手を見る事も無いが、自分には大きな出来事だった。

で、書きたかったのはこんな事ではなく、冒頭の間違い探し。この手の間違い探しはどういう訳か子供の頃から好きだった。月が変わり、これが最初の搭乗という時は必ずCAに『持って来て』と頼む。真っ先に開くページは、これ。先日、YouTubeにボケ防止として3つの間違い探しを1分で、と出ていたので、見てみた。数秒で見出した。で次をしてみてもやはり数秒で見つかった。なのでやめた。

ところが、これは難しく7つすべては見つけた事が無い。大概5つ6つで忍耐が切れる。真っ先に目に入っていたのは女の子のブルーのワンピース、裾の白いラインの太さが違う。次に右の兎がソフトクリームを床に落としてションボリしている。優しい犬が気付き、下の絵は自分のを食べるか？と声を掛け、兎が振り向いている。左のペンギンは持っているミルク瓶の位置が違う。右の狸だか狐だか、そもそもミルクを持っていない。左から二番目にいる牛の尻尾の角度が違う。今回は此処までしか分からなかった。乗って直ぐにページを開き、滑走を始めるまでがタイムリミット。離陸はストレスが掛かって目を瞑ってそのまま眠ってしまう。目が覚めれば大概目的地に降り立っている。

最近は何分のフライトであっても着陸に入る頃に霧困気の違いで目が覚める。さてさて、10月になる。来年の10月にはIMFがドルの基軸通貨制度廃止の発表をすると何処かで読んだ。そうすると、ドルの資産価値は下落、代わりに金が上がる。円も上がるが、これはまた別な理由で、日米の金利差で上がる。先に書いた『法』ではないが、力のあるものが恣意的に世界を動かしているのです、その大きな流れを読み取ると、少なくとも傾向は分かる。分からないのは、鯛は腐っても鯛という言葉通り、米国がどの程度のところで落ち着くかだ。此処に目が覚めないと、儲けそこなう。